

時事問題ノートの発表と現社新聞

参考資料

- ①指導と評価の年間計画 現代社会
- ②単元の指導と評価の計画
- ③学習指導案
- ④資料
 - 1 「時事問題ノート」より生徒の実践2部
 - 2 「現社新聞」生徒提出作品3部
 - 3 「現社新聞評価表」生徒提出分4部（縮小版）

岐阜県立多治見北高等学校

安藤 敦子

現代社会 指導と評価の年間計画

目標 [学習指導要領]	人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み [評価基準を念頭に置いた指導上の留意点]	・生徒が時事問題に興味を持ち意欲的に授業に取り組むための導入として、毎時間授業の冒頭に、「時事問題ノート」として新聞の切り抜きとその要約、感想の発表を行わせる。 ・基本的な事項を学習した上で、様々な課題を自己の問題・課題として考察することができるように、世界や日本の具体例を織り交ぜながら授業を実施する。 ・情報の取捨選択、活用の技能を習得するため、「現社新聞」の作成を課し、自ら設定したテーマに沿っての資料収集や資料の加工に取り組ませ、論理的思考に基づく紙面の完成に向けて適宜指導していく。 ・定期考査においては、知識理解のみならず思考力、表現力も評価できるような方法を工夫し、論述式問題の出題などを通して、生徒の多面的な能力評価を行う。

月	単元名	使用教科書（第一学習社）項目	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
4月	第3章 現代の経済社会と私たちの生活	①技術革新の進展と産業構造の変化 ②企業のはたらき ③市場経済のしくみ ④政府の経済的役割と租税の意義	・特に前期は基礎基本の定着に重点を置いて指導する。教科書の経済・政治分野の学習（中学校公民分野との連携を図りながら）から始め、質疑応答を中心とした授業の組み立てを工夫し、基礎の徹底を図る。	プリントの確認
5月		⑤金融機関のはたらき ⑥雇用と労働問題 ⑦公害の防止と環境保全 ⑧消費者問題と消費者主権	・「時事問題ノート」の目的や取り組み方を説明し、授業の冒頭で発表させながら、教師側からの評価を与えつつ、適宜自己評価・相互評価も取り入れる。	新聞発表を自己評価
6月	第4章 国際経済の動向と日本の役割	＜1次テスト：前期中間考査＞ テスト返却と反省 ①世界の経済体制の動向 ②貿易の拡大と経済摩擦 ③発展途上国の経済と南北問題 ④国際協力と国際組織の役割	・国際経済の歴史的変遷について具体的な出来事に関連させて理解する。 ・国際協力や国際平和という概念を具体的事例を通して理解する。	プリントの確認
7月		①民主政治における個人と国家 ②基本的人権と法の支配 ③日本国憲法の基本原理 ④平和主義と日本の安全	・国会を中心とした国民参政の方法を通じて国民主権が実現されているしくみを理解する。	プリントの確認
9月	第5章 現代の民主政治と私たちの生活	⑤基本的人権の保障と新しい人権 ＜2次テスト：前期期末考査＞ テスト返却と反省 ⑥裁判所と人権保障 ⑦国民主権と議会制民主主義 ⑧内閣と行政の民主化 ⑨地方自治と住民の福祉 ⑩世論形成と政治参加	・現代の構造改革、司法改革など、新聞記事を活用して、その背景や現状を理解し、三権の理解につなげる。	適宜センターの過去問を取り入れ、意欲を喚起する。
10月			・身近な政治参加、世論形成の方法を考察し、地域での活動に結びつけられるよう意義付けをする。	
			・憲法の成立過程と3つの原則について理解する。 ・資料集を活用し、自由・権利と責任・義務について様々な判例により認識を深める。	
10月	第1編 現代に生きる私たちの課題	①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③私たちの生活と宗教や芸術 ④科学技術の発達と一人一人の生命	・前期に学習したことや、現代社会で関心のある事柄について、各自「現社新聞」の作成に取りかかる。	行動観察
11月	第2編 第1章 現代社会の特質と社会生活の変化	⑤豊かな生活と福祉社会 ①大衆社会 ②少子高齢社会 ③高度情報社会 ④国際社会	・教科書の第1編および第2編第1章で取り上げられているような現代の諸問題を参考にテーマを決め、自主的に調査を行い、新聞としてまとめる。	収集した資料を評価
			・教科書の「スキル・アップ」をガイドラインに、最終的にB4版1枚の新聞を仕上げて提出する。	完成した新聞を見ての自己評価・相互評価
			・クラス毎に印刷してまとめ、相互評価・自己評価を行う。	
			・年度末に優秀作品を冊子にして配布する。	
11月	第6章 国際政治の動向と日本の役割	①今日の国際社会 ②国家主権と国際法 ③国境と領土問題 ④地域紛争と人種・民族問題 ⑤国際連合の役割 ⑥核兵器の廃絶と国際平和 ⑦日本の安全保障と外交 ⑧日本の役割と私たちの生き方 ＜3次テスト：後期中間考査＞	・国際問題に興味関心を持ち、その中での日本の役割について考察を深める。	プリント確認
12月			・国連の活動と日本の果たすべき役割について考察する。	適宜センターの過去問を取り入れ、意欲を喚起する。
			・現代の世界各国の様子を理解し、国際化・グローバル化を多面的に考察する。	
			・次年度以降の地歴科目学習の基礎として意識づける。	
1月	第7章 現代に生きる倫理	テスト返却と反省 ①人間の尊厳と生命の尊重 ②自由な社会に向けて ③平等な社会に向けて	・先人の思想を理解し、自己の価値観や生き方を考察する。	調べ学習レポートを評価
2月	第2章 現代に生きる青年	①青年期の意義と自己形成の課題 ②現代社会における青年の生き方 ＜4次テスト：後期期末考査＞	・自分と友人、家族、学校、社会などの関係について考察する。	プリント確認
3月				

第1編 現代に生きる私たちの課題

□単元の目標（学習指導要領の内容）

現代社会の諸問題について自己との関わりに着目して課題を設け、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追究する学習を通して、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚させる。

□単元ごとの評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
地球規模の問題に対する関心が高く自己との関わりに着目して設定した課題を意欲的に追究する。諸問題について自己のあり方生き方と関連させながら考えようとする。	諸問題について自己との関わりに着目して課題を見いだし、多面的・多角的に考察している。社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	地球規模の問題について諸資料を様々なメディアを通して収集し、資料の中から設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方などを身につけ課題追究の過程や結果をレポートにまとめ、表現する。	地球規模の問題の生じる背景や問題点を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な視点があることを理解し、その知識を身につけている。

□各授業時間ごとの主な内容

	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法
毎時10分	○時事問題ノート担当者の発表	○発表者は前に出て、「記事の内容」の要約と自分の感想を読む。【全】 ○聴く側は、静かに注意深く発表者の発言内容を理解し考える。【関】【思】【知】 ○質問や反論などあれば出させる。【関】 ○教員からコメント、教科書や資料集の該当箇所を示し補足説明を加える。【知】	○意見発表 ○聴く態度、質問などの積極性
第1時間目	○「現社新聞」の取り組み	○図書館での授業とし、何を調べたいかを決め、適切に資料の検索・活用を行い、提出日までの新聞作成計画を立てる。 ・テーマの決定（決めたら報告させる） ・資料の収集、選択 ・どう論じるか、どうまとめるか考察 ・紙面の工夫 ・最後の清書まで気を配る【全】 ○過年度生の優秀作品集「現代の視点」の冊子を見せ、参考にさせる。【意】 ○提出に当たっての約束事を徹底したうえで、司書の方の協力を得て、図書館内での資料探しを行い、各自取り組みを始める。	○主体的なテーマ設定かどうか ○積極的な資料検索
第2時間目	○「現社新聞」の評価	○印刷してある各自の新聞をクラス分まとめる。見出しなどから各自のテーマを知る。【関】 ○同じ分野のテーマに取り組んだ生徒でグループを作り、意見交換をする。【関】【思】 ○全体協議。自分とは違いテーマの作品も読み、相互評価に向けての質問など自由に行う。【関】 ○自己評価、相互評価を行う。 ○現代社会の諸問題について、積極的に学び、考察する。	○評価表提出

現代社会 単元の指導計画

第1編および第2編第1章の指導と評価計画

第1編 現代に生きる私たちの課題

- ①地球環境問題
- ②資源・エネルギー問題
- ③私たちの生活と宗教や芸術
- ④科学技術の発達と一人一人の生命
- ⑤豊かな生活と福祉社会

学習指導要領では、選択学習としてこのうち2つ程度を選択する としている。

(充当時間 10時間程度として 50分×10＝500分)

第2編 現代の社会と人間としてのあり方生き方

第1章 現代社会の特質と社会生活の変化

- ①大衆社会
- ②少子高齢化社会
- ③高度情報社会
- ④国際社会

学習指導要領では、選択学習としてこのうち2つ程度を選択する としている。

(充当時間 2時間程度として 50分×2＝100分)

すなわちこの部分(600分程度)に関してはかなり柔軟に指導計画が立てられる。

<本校における位置付け>

- ・65分授業の特性を生かし、毎授業時間の始めに「時事問題ノート」の発表を通して、これらのテーマに関心を持ち、自ら考える場面を約10分間設定する。年間授業時数が52時間程度なので1年間で 10分×52＝520分 をこの学習に充てることになる。
- ・「現社新聞」の作成について、事前指導、事後指導に各1時間を充てる。第1編および第2編第1章の学習内容を深化させ、互いに学びあえるような授業展開を工夫する。これに 65分×2＝130分 を充てる。

このようにして、本校では 計650分をこの分野の学習に充て、指導目標の達成と学習内容の定着を図っている。そのため指導と評価の計画が若干変則的なものになっている。